



写真提供：佐伯泰英事務所

最近、己（おの）の背後から写された写真を見て愕

文士の姿勢

然とした。肩のあたりの筋肉が落ちて背が丸まっている。なんだ、ただの爺ではないか。いえ、齢七十を過ぎたのだ、老人であってなんの不思議はない。また体型に変化があったとして当たり前のことだ。だが、か

よつにも見栄

佐伯通信

2013年5月（平成25）

第16号

発行
佐伯泰英事務所
担当／新潮社
禁・無断転載

えが、姿勢が悪かったのか。職人作家を自称している私だ。スポーツ・ジムに通い、筋トレをしてまで筋肉を保持する要は感じないが、せめて最後の刻まで自らの手足を使いきりたい。老いの進行を食い止めるのなどだれにも不可能だ、ということも承知している。一方で職人稼業の源泉はひたすら体調維持にある。というわけで、朝風呂で自己流のストレッチやら、湯の中で手足を開閉したり、バタ足したりと運動

佐伯泰英／近刊のお知らせ

10月

8日発売予定

9月

13日発売予定

7月

16日発売予定

6月

14日発売予定

《双葉文庫》

居眠り磐音 江戸双紙 43

『徒然ノ冬』

《ハルキ文庫》

長崎絵師通吏辰次郎『白虎の剣』【新装版】

《講談社文庫》

交代寄合伊那衆異聞 19

『長江』

『佐伯通信』第17号が入ります。
（初版・初回出荷限定）

《光文社文庫》

吉原裏同心 19 『未決（仮）』

《光文社文庫》

夏目影二郎始末旅【決定版】

1 『八州狩り』
2 『代官狩り』

近刊・作品情報は、こちらでもチェックできます。

<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

この「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもとに発行いたします。
（株）新潮社、（株）講談社、（株）角川春樹事務所、（株）双葉社、（株）光文社

萌える関西本線

新潮社 新潮文庫編集部 佐々木勉
「古着屋総兵衛シリーズ」担当

大黒屋矢来町支店の小僧、佐吉でございます。待望の第六巻『転び者』では、総兵衛様一行が神君伊賀越えの逆ルートで加太峠越えに挑戦されます。

神君伊賀越えと申しますのは、家康公三大御難に数えられる難儀でございまして、家康公が堺見物後の移動の途中で、本能寺の変の報がもたらされ、二十数人というごく少ない供回りで明智勢や土民や山賊といった魔の手をかいくぐって、河内から三河へと帰着した故事です。ちなみに他の二つは、三河一向一揆と三方原の戦いです。

J Rの関西本線の下り線は、加太→柘植→新堂→佐那具→伊賀上野というふうに駅が並びます。

柘植といえば、柘植ノ大猿・小猿、新堂といえば新堂ノ小太郎、佐那具は天正伊賀の乱の佐那具城、伊賀上野といえば忍者屋敷。どの駅名もみな心沸き立つではありませんか。忍者を目指していた方は、きっと分かっていただけかと思えます。

本書を片手に、関西本線で伊賀の旅というのはいかがでしょう。今はもう山賊も明智の残党もいませんから安全快適です。

古着屋総兵衛影始末
【決定版】全11巻＝完結 ①～⑪新・古着屋総兵衛
【新シリーズ】続々刊行 ①～⑥

新潮文庫

（？）している。また高低差のある敷地の石段を上がり下りし、一日一万歩を心掛けていた。これってなにかの役に立ったのか、無益な努力ではないか。ふと、思い出した。私が知己を得た作家詩人の堀田善衛、田村隆一、小川国夫の三先生はともに瘦身であった。だが、三氏ともに背筋が伸びて、挙動が美しく、酒の飲み方までほれぼれと魅惑的だった（若き日のことは知らないが）。三先生ともになにか運動をなされたということを知りたい。

たことがない。自然の理に逆らわず創作活動を全うされた。こちらはあれこれ無駄な抵抗した末にこの体たらく、酒に至っては未だ半人前の酒飲みだ。うーん、心構え、姿勢の美しさは普段の暮らしぶり、生き方にあるのか。今さら偉大な文士詩人の真似も叶わず、朝風呂でトドのようになうつしかないか。

「佐伯通信」第17号は、9月13日刊行予定の『長江 交代寄合伊那衆異聞19』（講談社文庫）に入ります。

《幻冬舎時代小説文庫》

『酔いどれ小籐次』
連続ドラマ化決定！

6月21日夜8時NHKBSプレミアム

—BS時代劇「酔いどれ小籐次」(全13回)—

刺客との激闘の末、
小籐次の手には赤ん坊が残った……。